新年あけましておめでとうございます。
職員の皆様におかれましては、令和３年（2021 年）という輝かしい年をご家族揃って、ご壮健にてお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。
また、昨年は町政進展並びに住民の皆様の福祉の増進にご尽力いただき、心より感謝を申し上げます。

この年末年始はコロナの感染拡大のため、皆様方には不要不急の外出を避けていただき、ある意味ではゆっくりと時間を過ごすことができたのではと思います。しかし、この休みの間に感染者も急激に増加しており、非常に危機的な状況になってきています。一昨日には、一都三県の知事が政府に緊急事態宣言の再発令について要請されたところです。まさに、そうした状況の中、新しい年を迎えましたが、今年は一日も早くコロナが終息し、平穏な日々が戻ってくることを願ってやまないところです。

昨年を振り返りますと、このコロナで始まり、コロナで終わった一年だったと思います。心から望んでいた東京オリンピック、パラリンピックも延期となり、町制施行 50 周年記念式典も延期となりました。その他、様々な事業も中止となり、不安と恐怖と未来への閉塞感に覆われていた一年だったと感じています。
そうした中でも、職員の皆様方には、それぞれの立場で仕事に専念し、大きな成果を残していただきました。特にコロナの感染症対策に関しましては、健康増進課を中心として三芳町独自の施策を提言いただき、予算の範囲内で確かな支援策を行うことができたと考えています。
議会でも、コロナ対策では評価できるというご発言もあり、私たちの施策がしっかりと伝わったのではないかと思っています。

また、その他にも様々な成果を残していただきました。この後、組織表彰として、顕著な成果を残した課を表彰いたします。まずは政策推進室。非常に財政が厳しい状況下の中で、ふるさと納税において大きな寄付額を確保していただきました。そして税務課。三年連続で埼玉県から表彰をいただきました。大変素晴らしいことです。そして、観光産業課。世界農業遺産に４度目のチャレンジをしております。まだ、結果が出たわけではありませんが、第一次審査、そして現地

調査を終えて、これまで苦節８年かかっていますが、納得のいく申請書を作っていただきました。あとは人事を尽くして天命を待つ状況ですけれども、大変頑張っていただいたということで、表彰させていただきます。

　これから新しい一年が始まります。まずは東京オリンピック、パラリンピックが無事に開催できること。三芳町はオランダ・マレーシアのホストタウンとして、そして人類がコロナに打ち勝った東京オリンピックとして開催されることを心から望んでいます。すでにオリンピック、パラリンピックのレガシーにつきましては、今年度の施政方針の中で、五つほど述べさせていただきました。「私の２０２０」として、感動から夢への挑戦。そして、スポーツを通した人づくり。「デポルターレの心で」ということで、健康増進を含めたスポーツに取り組んでいきたいということ。また、共生社会の実現に向けてのスタート。さらには国際交流を通じて世界の平和に貢献しようという五つのレガシーをあげています。

　当然、このレガシーを行使することを前提に一年間をスタートするわけですが、改めて、オリンピック、パラリンピックに関して、新たな気づきをいただく機会がありました。昨年の１０月、オランダの大使が代わり、表敬訪問にお伺いしました。これまで町が取り組んできたオランダ女子柔道チームとの交流事業の内容についてご説明し、三芳町としては、スポーツ、芸術文化、子どもたちの幸福度が世界一というオランダの教育に学びたいこと、農業の町「三芳町」としてオランダ農業大国に学びたいこと、さらにはLGBTなど、様々なお話をさせていただきました。

　その中で、大使の言葉が心に残っています。「オランダの女子柔道チームが、三芳町に来て、心地よく、楽しく過ごすことができるのは、オランダと三芳町が価値観を共有しているから」ということを言ってくださいました。この価値観を共有しているということは、とても嬉しいことでした。改めて、オランダ、そしてマレーシアと、オリンピック選手を受け入れる中で、様々な価値観を共有することが非常に大事なことだと感じました。オリンピック精神の中に、新たな生き方の創造という言葉がありますが、まさにオリンピズムの精神をしっかりと認識し、実現していくことが重要であると思います。

　さて、ここ数か月、自分の中で体験したこと、あるいは聞いたお話の中で、印

象に残った言葉があります。三つの事を新年度の指針にしたいと考えています。

一つが「Life change experience」、人生を変えるような体験。

三芳町は一昨年、オランダに中学生を海外派遣しました。新年度の検討においてオランダにいるアドバイザーと情報交換をしている中で、「今でも派遣した生徒 6 人はオランダの家族の皆さんと交流を続けています。中には、来年オランダに留学したいという生徒もいます」とお話をされていました。大変素晴らしいことだと思います。そのアドバイザーがホストファミリーの方に「どうしてそのようになったのでしょうね？」と聞いたところ、ホストファミリーの方が「Life change experience、人生を変えるような経験だったんでしょうね」ということでした。さらに、「ホストファミリーの皆さんは次回三芳町の派遣があった場合、必ず声をかけてくださいと言ってくださいました。三芳町の子どもたちを自分の子どものように思ってくれていて、オランダに来る時は、いつでも家に来て滞在してほしいと言ってくれています。お二人とも、言葉に言い尽くせぬ、お金では買えない経験をさせてもらったと言っていました。そこまで思ってくれているというのには、学生さんたちもそれだけのものを返したということだと思います。魂が触れ合うような経験をしたのでしょうね。」このようなメッセージを送っていただきました。

この「Life change experience」は、中学生海外派遣で海外に行った生徒だけではないと思います。人生そのものが小さな、あるいは大きな人生を変えるような経験の積み重ねです。そうした経験を積むことによって自身が成長し、自己実現を図っていくことができる。それは、自分の私生活でも、また公務員として職務に専念する中でも、そうした経験はできます。ぜひとも皆様には、そのような経験を積み重ね、感動し合えるような職務を行っていただけたらと思います。

また、公務員は全体の奉仕者であり、最大の住民の皆様へのサービス業であるとも言われています。住民の皆様が役場に来て、あるいは町の様々な事業に参加して、本当に良かったと、素晴らしい経験をさせてもらったという、そんな「Life change experiennce」を提供することが、違った意味での使命であると思っています。

そして、二つ目が、「寝ても覚めても」。

皆様はこれまで人生の中で、寝ても覚めてもという思いをされたことがある

と思います。初恋であったり、受験勉強であったり、スポーツであったり、そのような経験があったのではないでしょうか。

昨年の１２月に静岡県小山町に視察に行ってまいりました。静岡県の小山町の町長は２年前に代わっていますが、シティプロモーション自治体等連絡協議会でご一緒させていただきました。大変アグレッシブな方で、私も学ぶことが多くありました。ふるさと納税で数十億円、それから企業誘致やホテル誘致など、様々な事業を手掛けてましたけれども、残念ながら落選をしてしまいました。職員の方から聞いた話ですが、落選した当日は非常に落ち込んでいたそうですが、次の日からバイタリティ溢れて活動していたそうです。そして、ご自宅の前には「寝ても覚めても　小山町」と書かれて、頑張っているそうです。

この「寝ても覚めても」の言葉を聞いて、私も初心に帰らなければいけないと思いました。自治体のトップも会社の経営者も、トップというのは２４時間３６５日、「寝ても覚めても」の思いで、仕事をしています。皆様にそれをお願いするわけではありませんが、ある時期、ある事業に対して、そうした思いを傾注し、仕事に取り組むことが大事ではないでしょうか。私も、この一年、「寝ても覚めても三芳町」という気持ちで仕事をしてまいります。皆様も、自分の「寝ても覚めても」というテーマを考えていただき、仕事をしていただければと思います。

そして、三つ目ですが、今年度は一燈塾を再興いたしました。先人たち、あるいは企業経営者、またスポーツ選手等の成果を上げた方々の言葉を通して、共に学んでいこう、リーダーシップを学んでいこうという塾です。この中で、自由発表として自分の体験談などを話す場があります。改めて、一人ひとりが今まで経験したことについて胸襟を開いて話してくれたことが、印象に残っています。山登りが好きだったことやサーフィンで世界を回ったなど、色々な話を聞いて、心を開くことによって、その人との距離が非常に近くなったと感じています。また、一緒にワンチームとなって仕事をしていくうえで、大事なことではないかと感じました。今の社会というのは難しい社会なのでしょうか、お互いのことを気遣って、場を見ながら、牽制しながら仕事をしています。ざっくばらんにオープンにということが難しい世の中だからこそ、お互いに胸襟を開いて話をすることが、あるいはコミュニケーションをとることが重要になると思いました。特にコロナ禍で、お互いに意見交換をしたり、あるいはお酒を飲んだりする時間がなく

なりました。埼玉県の大野知事は、県庁の職員も飲み会、ノミニケーションがなくなり、新たに入ってきた職員の皆様も滅入っているというお話をされていました。実際、今年度入った職員の方が大勢いらっしゃいますが、マスクをし、また、毎年行っている入庁 3 年未満が対象のバーベキューもなく、お互いの理解を深められていない状況にあります。コロナ禍にあっても、お互いに胸襟を開いて、コミュニケーションをしっかりとっていただきたいと思ったところです。

最後に、本日の稽古照今にあげた安岡正篤さんという戦前戦後を通して、財界や政界に大きな影響を与えた思想家がいます。ここに「一日一言」という３６５日、安岡さんの言葉が載っている本があります。その１月１日には、「年頭自警」年始めに自ら警戒するという意味になりますが、５つあげています。

一、年頭まず自ら意気を新たにすべし。
二、年頭古き悔恨を棄つべし。
三、年頭決然滞事を一掃すべし。
四、年頭新たに一善事を発願すべし。
五、年頭新たに一佳書を読み始むべし。

皆様の新しい年がスタートいたしました。それぞれが自分の中で目標を掲げて、一年を歩んでいってほしいと思います。そして皆様の力をいただきまして、三芳町がさらに発展し、住民の皆様が幸せになられるよう、私も人事を尽くしてまいりますので、皆様のご尽力、ご協力をよろしくお願いいたします。

結びにあたりまして、この一年間、皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念いたしまして、年頭の訓示に代えさせていただきます。
本年もよろしくお願いいたします。